

令和8年度衣類バンク事業連絡会議

実施日	令和8年8月17日（月） 13:30～15:00 Zoomによるオンライン
参加者	45名 （衣類バンク実施施設施設長・担当者、市町村社協、衣類バンク未実施施設）
講演	社会福祉法人邑元会 総合福祉施設あかつき 神戸 氏
実践報告	社会福祉法人栃の木福祉会 とちの木こども園 強矢 氏



当日のオンラインの様子

内容
総合福祉施設あかつきの神戸氏より、「社会福祉法人による地域における公益的な取組」について、ふかや社会福祉法人社会貢献活動推進連絡会の活動の紹介と併せて、施設の取組を講演いただきました。 また衣類バンク実施施設である、とちの木こども園の強矢氏からは、衣類バンクの寄付と併せてペットボトルキャップの回収、フードドライブへの寄付という3つの社会貢献活動をラリー形式で実施した「社会貢献活動チャレンジラリー」について、実践報告いただきました。 グループワークでは、各施設での衣類収集方法やその効果、近隣の施設・社協と協働した周知・衣類収集方法について、意見交換を行うことで情報を共有しました。 【神戸氏のお話】 深谷市では、社会福祉法人が連携し、身近で実践的な地域貢献を展開している。 小中学校への講師派遣を通じて子ども達への福祉教育を実施するほか、こども食堂や学習支援の場を設けたり、施設での外国人材との交流や語学学習の機会を提供。地域の社会福祉法人のこうした発信が、子ども達が福祉への親しみや興味を持つきっかけとなり、将来的に未来の福祉を担う人材の育成へつながっていく。 一般企業も社会貢献に目を向ける中、社会福祉法人も利益追求だけでなく社会貢献を継続し、地域へのアプローチを強め、価値を高めていくべきだと思う。 【強矢氏のお話】 チャレンジラリーは、法人で実施している活動について知ってもらうだけでなく、親子で楽しく参加できる機会を作りたいと思い企画。子ども達が「楽しそう！やりたい！」と興味を示し、子ども主導でラリーがスタート。参加者がどんどん増えていき、イベント終了後のアンケート結果では、回答いただけた方から高評価をいただくことができた。今後も、社会貢献活動を「特別なこと」ではなく身近なものと感じてもらえるよう、楽しみながら参加できる機会を設け、活動への理解と参加の輪を広げていきたい。
参加者の声
◇地域とのつながりをつくり、地域のニーズを知ることが、地域貢献だけでなく自施設をより良くしていくことにもつながるという点が印象に残りました。 ◇フードパントリーや相談会といった公益的な取組は困窮世帯を地域全体で支えるセーフティネットとして非常に重要な役割を果たしていると感じました。 ◇子どもを巻き込んでゲーム感覚で活動につなげていく視点がとてもよかったと思う。また、案内掲示ひとつにしても分かりやすく見やすく、そして興味を引き付けられるような配色など大変参考になった。